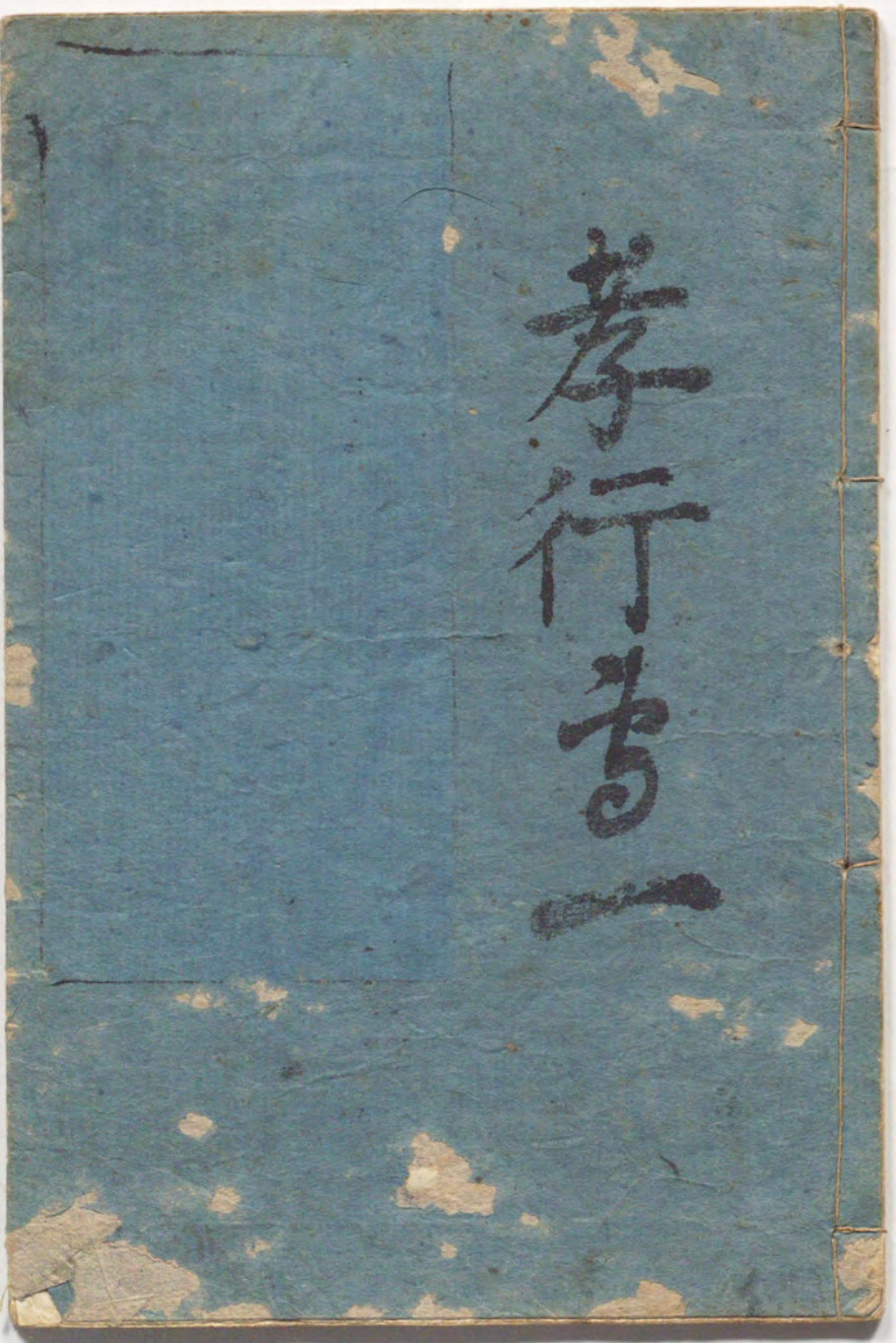
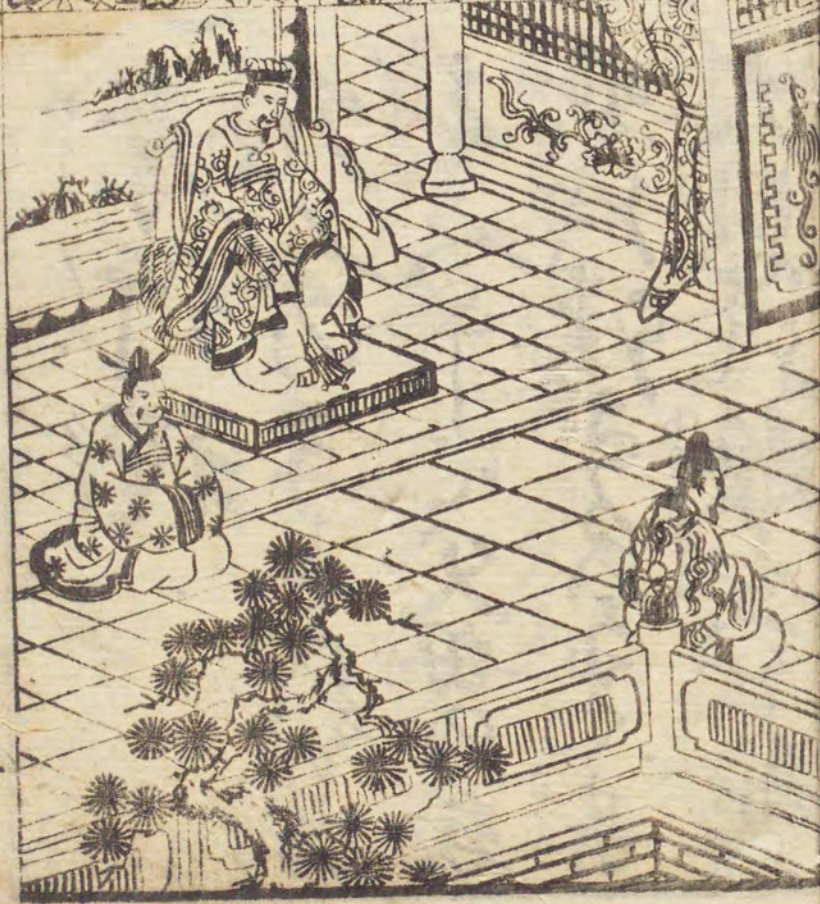




孝
行

種行孝

童教訓





硯のそと

こん 王やうがえん
 後漢の李公墨硯
 の銘書契まふ
 おうて書硯別ち
 はふぬとつう然か
 以三物ハ皇帝の代ハ
 をつあんと車物
 紀原ハ是より後
 用ハて破ふまうの

孝行種

元人の子ま教みの

を人ぞと父母の慈

悲城清さるひあく其

大恩れ難きを契

先賢孝のよる

肝要也我身知難と死ハ

是は毎々知むといふも

既ハ母の懐ありとく

時刻と乳とがもて

漢の揚雄えん とうゆうふと

はるに徐氏じょしを精せいふ

ええと

墨すみのそと

古今こんこん原姑げんこより

其そのの所ところ薛稷せつぎは

りて墨すみををけく

事物じぶつ紀原きげんの流ながふ

よれば墨すみも帝てい

の時ときよりよりは

又またも後周こうしゅう世宗せいそうの

所ところ易水えいすいの人ひと李新りしん

その子こ延佳えんけいと若わかふ

徽別きけつより松烟しょうえんと和わ

して墨すみを造つくる

松烟しょうえんの始はじめあり

五雜俎ござぐの魯ろの事こと

はじめて松烟しょうえんの制せい

あきち

哭く慕ぼふとの文字もじハ

そのとき

悔くれども主唱しゅていの均ひとき

天てんと我われ教おして父母ちちうぶの

も兒こを知しむる事こと

一いちせん

自然ぜんぜんに道理だうり也なりされば

女子こしれれちるやまあふ

あふあふ代しろををうう故ゆゑよとの

悲かなしみの悔くををまらんと

母ははのおうう袋ふくろとと稱なづ

まゐるも皆みなを徳とくととををれ



あつとつ 鞍耕録

あつとつ 宋の熙豊

の間張遇御筆を

供油烟をうけて

給御書香合の

を今墨を烟の

これ松香劑と

の油烟墨のほ

の松ノ丸組は云

墨不松独身香

金箔を用ゐる

宋の張五より

まろこつとも太

白が詩小蘭詩

さる乃長紫あり親の

公は子ありふ十歩も

子のふお親と思ふる

あらば連き孝あり

中もといふなり父母の

母は海は雲山は比と

ありく報がた事なり

和九斗が二七も孝なり

ありとありふる天

洗理を知りふに

ちんぐ ちんぐ
珍事を擬まの
借あれが唐の
おもすふ舞香
墨ふ架とん

筆のそと

ちんぐ
物志云泰の
蒙恬筆を
又よく舞香を
作りの今系

あふ舞始て本
然れりありあり
今注ふあり
蒙ありてより
則ち筆あり
世ふ蒙帖筆
能く云へばや
帖ふ泰の筆
むのと枯木を

ち まるちん じ
父ハ則天の如く母ハ

ち じ
利比の如く

ち じ
外ハ天の徳を

ち じ
捨る事ハ地の理

ち じ
あり萬物皆天の調

ち じ
津を身と生養み

ち じ
柳ハ松はしたるハ苗

ち じ
代の如く稲と実の

ち じ
新収ふ夕まふ自ら

ち じ
生じて自ら実の

髪と兼の毛を
 梳に羊の毫を
 彼と云ふ謂は
 甚の鬼毫竹炭
 あらわはこれより
 て是を云ふ羊の
 毛を以て羊ト云
 るのハ衆怖るに
 孝行集
 佐車おとるる婦
 お衆怖る婦
 他と云ふハ婦人
 衆怖る衆の婦皇
 の附の人あり



あらわはの娘育の丹
 減少も悔意がた
 以て来と成されバ我
 母も生れあがらやと
 人ともじああら毛金
 父母は衆育丹成の意
 が海より斯あまうりや
 おもむ杯う父母の大恩
 成思ひざらん己初経乃
 往方遠ハ五人を思

衛詩よまむ小形

後あり是ハ女史

の載るの事云

又傳云史を

のま曲れは

又孔子春秋を

の所筆を

則ち筆し

地ハ則ち

以獲麟小絶

五雜俎

経家作

孝經を

とあり又尚書中侯

云云龜圖

て

とて

とて

立ハ歩

我侯の人

親ハその

その

ちり

今親の

志不

不孝

快

志

親

親

親

親

親

親

親

親

城軍一よりき

介雅がみ説文

泰あこれと第

いの禁あこれ

律との号あ

と成不事とい

燕あこれを非

いのとをい

由と来との

馬六年とれ

會してひて

の事に別つ

竹竿之毫を

多あわん

あふて始て

多とをい

あれた子

の中ふ

省へ今又おのれが親の

とをい

只うあん新法精

成誰う不便とお

らめ秋子あれば

昔不付然あ

末の事までも

生涯の経意

病あふ

度大の慈悲

一 法あづから父も孝
 孝成るまじ死んあはれ
 人面獣心の賊と見え
 かく王のしも附連ふ
 夢事と思え懼れ
 又く父母を孝切は男ふ
 事足子する者の道
 あり圃道唐土の孝文
 孝半ふ竿城年松氷
 此よふ身と仰く孝成



紙のそとまう

後漢書家倫が
傳ふもく更ふ
お奨ふもく更ふ
後を編むもく

あふもく後漢書
用ふもく更ふ
お奨ふもく更ふ
後を編むもく

紙のそとまう

求るる例あれも今の
まはれ人毛とまふと
よああらはれ己がまは
悔む飯も遊里の色ふ
流む娘衆も愁ふ枕て
酒のみふ沉醉し父母の
教訓も遠ふも成ふ
御まふる色慾の身を
傷る事へえ安く酒毒の
身ふあつるも知る

元興元年とれを
 孝行和帝の
 徳をよめんとせ
 孝行天下の用を
 孝行のほろけ
 孝行倫が紙といふ
 孝行原始の孝行
 孝行伯毛弘耶那淳
 孝行孝行の紙を代

孝行孝行伯毛
 孝行孝行倫に
 孝行紙を代とせ
 孝行孝行の紙を
 孝行孝行の紙を
 孝行孝行の紙を
 孝行孝行の紙を
 孝行孝行の紙を

色慾を以て事の本とせ
 酒を以て事の本とせ
 孝行人を害する事
 孝行孝行を好んで止
 孝行孝行の孝行とせ

孝行孝行の孝行
 孝行孝行の孝行
 孝行孝行の孝行
 孝行孝行の孝行
 孝行孝行の孝行
 孝行孝行の孝行
 孝行孝行の孝行
 孝行孝行の孝行

孝行の人は必ずしも
孝行の始は必ずしも

孝行の人は必ずしも
孝行の始は必ずしも

孝行の人は必ずしも
孝行の始は必ずしも

孝行の人は必ずしも
孝行の始は必ずしも

孝行の人は必ずしも
孝行の始は必ずしも

孝行の人は必ずしも
孝行の始は必ずしも

孝行の人は必ずしも
孝行の始は必ずしも



孝行の人は必ずしも
孝行の始は必ずしも



孝行の人は必ずしも
孝行の始は必ずしも



孝行の人は必ずしも
孝行の始は必ずしも



孝行の人は必ずしも
孝行の始は必ずしも

孝行の人は必ずしも
孝行の始は必ずしも

孝行の人は必ずしも
孝行の始は必ずしも

孝行の人は必ずしも
孝行の始は必ずしも

孝行の人は必ずしも
孝行の始は必ずしも

孝行の人は必ずしも
孝行の始は必ずしも

孝行の人は必ずしも
孝行の始は必ずしも

孝行の人は必ずしも
孝行の始は必ずしも

孝行の人は必ずしも
孝行の始は必ずしも

孝行の人は必ずしも
孝行の始は必ずしも

孝行の人は必ずしも
孝行の始は必ずしも

書物問屋

江戸馬喰町三丁目

森屋治兵衛板

文政七甲申年正月發販

大成修理 萬寶柱建往来 大本一冊

東都市山縣居 東里山人著

